

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成19年2月8日(2007.2.8)

【公開番号】特開2005-295107(P2005-295107A)

【公開日】平成17年10月20日(2005.10.20)

【年通号数】公開・登録公報2005-041

【出願番号】特願2004-105778(P2004-105778)

【国際特許分類】

H 04 L 12/28 (2006.01)

H 04 Q 7/38 (2006.01)

H 04 Q 7/34 (2006.01)

【F I】

H 04 L 12/28 300B

H 04 B 7/26 109K

H 04 B 7/26 106B

【手続補正書】

【提出日】平成18年12月19日(2006.12.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

本実施形態の無線LANでは、アクセス方式として、CSMA/CA通信方式を用いている。CSMA/CAでは、データ信号を送信する前に希望送信周波数の信号レベルを観測し、他の局が送信していなければデータ信号の送信を行うことができる。他の局が送信中の場合は、所定の手順により送信処理をやり直す。この手順に従うことにより、複数の局が同時に送信したデータ信号が受信局で干渉し、受信誤りとなることを防いでいる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0025】

図1に本実施形態における無線通信装置の構成図を示す。この無線通信装置は、通信回路101、通信制御回路102および対無線LAN干渉制御回路103から構成されている。なお、主に対無線LAN干渉制御回路103で、送信要求信号を受信した受信局が受信準備完了信号を返送する第1の無線通信方式を構成する。また、通信回路101および通信制御回路102で、第1の無線通信方式と同一の周波数帯でデータ信号の送受信を行う第2の無線通信方式を構成する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0029】

タイミング制御回路111は、通信期間の長さや送信タイミングを制御するための回路である。このタイミング制御回路111は、通信制御回路102から通知される通信回路

101の通信期間に従い、デュレーション設定回路112に次の通信期間の長さを通知し、CTSフレーム生成回路114にCTSフレーム送信タイミングを通知する。具体的には、CSMA/CAに要する可能性のある時間とCTS信号の送信に要する時間と自端末が送信したいデータ量の送信時間とを合わせた時間を、次の通信期間の長さとして通知する。また、この通信時間の長さを考慮して、送信開始時間を早めた期間をCTS送信タイミングとして通知する。